ジャパトラ 全国ネットワーク

古民家に関するご相談は、最寄りの各機関までお気軽にご連絡ください。

1 北海道古民家再生協会
南北海道古民家再生協会
【日本伝統再築士会】北海道支部
【全国古民家活用推進協会】北海道支部
【全国伝統耐震診断連合会】北海道支部
北海道木の住まい支援協会
【住育学校】札幌中央校

2 青森県古民家再生協会
【日本伝統再築士会】青森支部
【全国伝統耐震診断連合会】青森支部
【全国床下インスペクション協会】青森支部
【ハンドプレカット工場】青森工場
【全国循環型解体支援協会】青森支部

3 岩手県古民家再生協会

4 古民家再生協会宮城

6 山形県古民家再生協会

7 古民家再生協会福島
【日本伝統再築士会】福島支部
【全国伝統耐震診断連合会】福島支部
【全国床下インスペクション協会】福島支部

8 茨城県古民家再生協会
茨城県つくば古民家再生協会
【日本伝統再築士会】茨城支部
【全国伝統耐震診断連合会】茨城支部
【全国床下インスペクション協会】茨城支部
茨城県木の住まい支援協会
【ハンドプレカット工場】茨城工場

9 栃木県古民家再生協会
日光古民家再生協会
栃木県新民家推進協会
【日本伝統再築士会】栃木支部
【全国古民家活用推進協会】栃木支部
【ハンドプレカット工場】栃木工場

10 古民家再生協会群馬

11 古民家再生協会埼玉
【日本伝統再築士会】埼玉支部
【全国床下インスペクション協会】埼玉支部

12 古民家再生協会千葉市原支部
南千葉古民家再生協会
千葉県新民家推進協会
【日本伝統再築士会】千葉支部
【全国伝統耐震診断連合会】千葉支部
千葉県木の住まい支援協会
【ハンドプレカット工場】千葉工場

13 古民家再生協会東京
日本伝統再築士会
【日本伝統再築士会】東京支部
全国古民家活用推進協会
【全国古民家活用推進協会】東京支部
古民家活用推進協会
全国伝統耐震診断連合会
【全国伝統耐震診断連合会】東京支部
【全国床下インスペクション協会】東京支部
東京都木の住まい支援協会
【住育学校】東京青山校
伝統構法耐震評価機構

14 古民家再生協会神奈川
神奈川県新民家推進協会
【日本伝統再築士会】神奈川支部
【全国古民家活用推進協会】神奈川支部
【全国伝統耐震診断連合会】神奈川支部
【全国床下インスペクション協会】神奈川支部
【ハンドプレカット工場】神奈川工場
住育学校 横浜金沢校

15 新潟古民家再生協会
新潟古民家再生協会上越
【日本伝統再築士会】新潟支部
【全国伝統耐震診断連合会】新潟支部
【全国床下インスペクション協会】新潟支部

16 富山県古民家再生協会
富山県新民家推進協会
【日本伝統再築士会】富山支部
【全国伝統耐震診断連合会】富山支部
富山県木の住まい支援協会
【ハンドプレカット工場】富山工場

17 古民家再生協会石川

18 古民家再生協会福井
古民家再生協会福井若狭
【日本伝統再築士会】福井支部
【全国古民家活用推進協会】福井支部
【全国伝統耐震診断連合会】福井支部
【全国床下インスペクション協会】福井支部
福井県木の住まい支援協会
【ハンドプレカット工場】福井工場
【古材倉庫】福井あわら店

19 山梨古民家再生協会
移築古民家商業店舗活用協会

20 長野県古民家再生協会
【古材倉庫】長野三輪店

21 古民家再生協会岐阜
【日本伝統再築士会】岐阜支部
【全国古民家活用推進協会】岐阜支部
岐阜県木の住まい支援協会
【ハンドプレカット工場】岐阜工場
【古材倉庫】岐阜店

22 静岡県古民家再生協会
【静岡県古民家再生協会】中部支部
【静岡県古民家再生協会】東部支部
【静岡県古民家再生協会】西部支部
静岡県新民家推進協会
【日本伝統再築士会】静岡支部
【全国伝統耐震診断連合会】静岡支部
【全国伝統耐震診断連合会】静岡大井川支部
【全国床下インスペクション協会】静岡支部
静岡県木の住まい支援協会
【ハンドプレカット工場】静岡工場
【住育学校】静岡清水校

23 愛知県古民家再生協会
【愛知県古民家再生協会】日進支部
愛知県新民家推進協会
【日本伝統再築士会】愛知支部
【全国伝統耐震診断連合会】愛知支部
【ハンドプレカット工場】愛知工場
【古材倉庫】愛知碧南店

24 三重県古民家再生協会
【全国伝統耐震診断連合会】三重支部
三重県木の住まい支援協会
【ハンドプレカット工場】三重工場
【日本伝統再築士会】三重支部

25 古民家再生協会滋賀
【日本伝統再築士会】滋賀支部
【全国古民家活用推進協会】滋賀支部
【全国伝統耐震診断連合会】滋賀支部
【全国伝統耐震診断連合会】滋賀南支部
【全国床下インスペクション協会】滋賀支部
滋賀県木の住まい支援協会
【ハンドプレカット工場】滋賀工場

26 京都府古民家再生協会
京都府新民家推進協会
【日本伝統再築士会】京都支部
【全国伝統耐震診断連合会】京都支部
京都府木の住まい支援協会
【ハンドプレカット工場】京都工場

27 古民家再生協会大阪
南大阪古民家再生協会
【日本伝統再築士会】大阪支部
【全国古民家活用推進協会】大阪支部
【全国伝統耐震診断連合会】大阪支部
【ハンドプレカット工場】大阪工場

28 古民家再生協会兵庫
【日本伝統再築士会】兵庫支部

29 奈良県古民家再生協会
奈良中央古民家再生協会
【日本伝統再築士会】奈良支部

30 和歌山県古民家再生協会

31 古民家再生協会鳥取

32 古民家再生協会島根
【日本伝統再築士会】島根支部

33 岡山県南部古民家再生協会
岡山県北部古民家再生協会
【日本伝統再築士会】岡山支部
【全国古民家活用推進協会】岡山支部
【ハンドプレカット工場】岡山支部

34 古民家再生協会広島
広島県新民家推進協会
【全国伝統耐震診断連合会】広島支部

36 徳島県古民家再生協会
徳島県新民家推進協会
【全国床下インスペクション協会】徳島支部

37 古民家再生協会香川

38 古民家再生協会愛媛
【全国伝統耐震診断連合会】愛媛支部
【全国床下インスペクション協会】愛媛支部
愛媛県木の住まい支援協会
【住育学校】松山校
【全国循環型解体支援協会】愛媛支部

40 福岡県古民家再生協会
福岡県中央古民家再生協会
福岡県北部古民家再生協会
福岡県新民家推進協会
【日本伝統再築士会】福岡支部
【全国伝統耐震診断連合会】福岡支部
【全国伝統耐震診断連合会】福岡中央支部
【全国床下インスペクション協会】福岡支部
福岡県木の住まい支援協会
【ハンドプレカット工場】福岡工場
【住育学校】福岡第一校
【古材倉庫】福岡八女店
古民家生活者支援協議会

41 【全国伝統耐震診断連合会】佐賀支部

42 古民家再生協会長崎
長崎県伝統資財再生機構
【日本伝統再築士会】長崎支部
【全国古民家活用推進協会】長崎支部
【全国伝統耐震診断連合会】長崎支部
【ハンドプレカット工場】長崎工場

43 古民家再生協会熊本
古民家再生協会熊本南部
【日本伝統再築士会】熊本支部
【全国伝統耐震診断連合会】熊本支部

44 大分県古民家再生協会
大分県北部古民家再生協会
【日本伝統再築士会】大分支部
【全国伝統耐震診断連合会】大分支部
伝統素材伝承支援協会

45 古民家再生協会宮崎
古民家再生協会宮崎中央
【全国床下インスペクション協会】宮崎支部
【ハンドプレカット工場】宮崎工場

46 古民家再生協会鹿児島
鹿児島県新民家推進協会
【日本伝統再築士会】鹿児島支部
【全国伝統耐震診断連合会】鹿児島支部
【全国床下インスペクション協会】鹿児島支部

47 沖縄県古民家再生協会
【全国伝統耐震診断連合会】沖縄支部
【全国床下インスペクション協会】沖縄支部
【ハンドプレカット工場】沖縄工場

2018
5
皐月

JAPANESE TRADITIONAL

ジャパトラ

未来へと受け継がれる 日本の伝統と住文化

photo by えんれん(香川県)

かつて大繁栄した鉱山の「木浦すみつけ祭り」

【大分県の奇祭】四百年の歴史に幕が下りるのか？

Contents

4 大分県の奇祭 四百年の歴史に幕が下りるのか？
かつて大繁栄した鉱山の「木浦すみつけ祭り」

9 「番匠師」森本 真弘 氏

13 古民家が日本を元気にする

15 古民家農泊プロジェクト

17 匠主RUN

18 未来へつなぐ

19 新民家を訪ねて

21 TOUCH WOOD！

23 「移住物語」高知県 鈴木 昌樹子 氏

25 連載小説「木は生きている」作・森 久美子

31 法律の羽根

32 ロングステイの力

33 古民家鑑定士おすすめ！全国古民家データベース

35 How to 古民家活用

36 全国ネットワーク

荒城の月に歌われる岡藩御用達の鉱山

大分県佐伯市宇目の山中に、木浦鉱山と呼ばれる場所がある。そこは山の谷間の切通のような細い路の先にあり、カーナビがなければたどり着けないような場所である。

この場所には現在、二十五家族三十一人が居住しているが、その多くは八十歳前後の高齢者。いわゆる限界集落である。

しかしこの場所は、今から四百年前、江戸時代には千軒もの住宅が建ち並ぶ有数の鉱山町だった。当時、この地を管轄していたのは、岡藩である。岡藩の城は、佐伯市に隣接する竹田市にある岡城であり、竹田市出身の滝廉太郎が作曲した「荒城の月」のモデルの城のひとつと言われる。この岡藩の財政を支えたひとつが木浦鉱山だった。

産物は、鉛や錫が中心で幕府に献上していたといわれるが、金や銀も産出していたという話も聞く。金銀の産出が文書の記録に残っていないのは、地方大名の裏資産形成だったのかもしれない。

木浦の風景

過酷な鉱山労働のなかから生まれた祭り

木浦鉱山には、「唄げんか」と呼ばれる子守唄がある。他の村から口減らしで売られてきた少女たちは、鉱山労働者の家で子守をしていた。それがあまりにも辛いといって他の子守に向かって唄でけんかを仕掛けることでお互いの辛さを慰めあったという。辛い仕事は、鉱夫だけでなく住人すべてに及んでいたのであろう。

木浦鉱山は、さまざまな鉱物が採掘される宝庫であっただけに、江戸時代には大きな落盤事故も発生した。落盤事故から無事生還した者たちが一様に黒い顔をしていたことが、顔にススを付けて家内安全や健康長寿などの厄除けを願う「すみつけ祭り」の起源ではないかという説があるが、定かではない。

木浦唄げんか

すみつけ祭りの復活と終焉

木浦鉱山の「すみつけ祭り」は、過疎と高齢化により二〇〇五年に中止となった。ところが、高齢化した地元地区民たちの祭り存続の願いが強いことを知った、木浦鉱山出身で大分県内外に居住している人たちが祭り復活に立ち上がったのである。二〇〇八年のことである。

私は、この二〇〇八年の祭りの撮影に訪れていた。

この時の模様を、私は自分の写真ブログにこのように書いた。「もし日本祭り遺産というものがあるのであれば、木浦すみつけ祭りを登録したい」。私は日本の祭りを多く見て撮影してきたが、心が揺さぶられ感銘を受けるのは大きな祭りや有名な祭りではなく、観光客などほとんどいない、地元住民だけの祭りであることがほとんどだ。特に限界集落の祭りは、いつまで存続するのだろうという危機感と背中合わせのため、余計に心が前のめりに入り込む。

二年前、この木浦鉱山すみつけ祭りの実行委員と名乗る佐藤氏から連絡があった。木浦に残る年寄りたちの数も減り、二年後の二〇一八年二月の祭りを最後にすることを木浦のみんなから提案してきた。ついては、最後を見届ける撮影をお願いしたいというものだった。復活した祭りの最初と最後を撮影するのかという感慨もあり、二つ返事で承った。

すみつけ祭りの準備風景

すみつけ祭りとは、大根の一片に墨の粉を付け、誰カレかまわず、「祝わせちょくれ」と一言断って、顔に墨を塗りつけるというもの。

この祭りのために、大分県内外にいる有志が定期的に集まり実行委員会で話し合いを重ねてきた。祭りの準備として、神社会場の設営、大幣という巨大な御神体の製作。八百個もの大根片の準備などがある。

なかでも、大幣の製作は骨が折れる作業だ。

手ぬぐいほどの大きさの和紙を七枚重ねて、複雑な切れ込みを入れてゆく。切る和紙の枚数は千五百枚にのぼる。これを長さ五メートルの竹竿二本に飾り付ける。木浦に残る長老たちの指導を受けながら、若者たちが製作を担当する。祭りの前日、完成した大幣が置かれる木浦鉱山の集会所には、慌ただしく働く若者たちと、それを椅子に座って優しく見つめる高齢の長老たちがいた。

その集会所の隣部屋の台所では十数名の女性たちが、大根を切っている。一本の大根を数個に切り分け、その切り口に包丁で碁盤の目を刻んでいる。これで墨がたっぷりと大根に付くのだそうだ。

大幣を作る若者たちや大根を切る女性たちの活気を見ていると、これが四百年続いた祭りの最後の風景とは思えなかった。

大幣製作の集会所

二本の大幣

大根を切る明るい女性陣

荒神舞の前日練習風景

大幣の複雑な和紙切れ込み

最後の祭りの日

実行委員会の佐藤氏から、今回が最後になることは当日まで口外しないようにと言われていた。最後と発表すると予想外の観光客が押し寄せるかもしれない。そうなると、自分たちの力ではコントロールできなくなるという理由だった。過去には、特にカメラマンの自己中心的な行動や暴言で、たびたび不快な思いをしたことがあると言われ、私も我が身を振り返ってしまった。

当日朝十時頃から、ぞくぞくと神社がある高台の会場広場に人々が集まり始める。私の感覚だが、半数が木浦鉱山の元住民家族か関係者。残り半分が観光客という配分かと思う。実行委員会の若者が、階段を登ってくる人々に大根を渡す。ショックだったのは、立派なカメラを持っている人ほど、大根の受取りを断る姿だった。俺は写真を撮りに来たのであって祭りに参加する気はないと態度が示していた。

荒神の降臨から祭りが始まる

祭り開始の花火が打ち上げられる。会場の石段の上にある神社から三人の荒神(こうじん)が、右手にムチ、左手に大根を持って、ゆっくりと舞いながら石段を下りてくる。すみつけ祭りの見所の一つだ。

荒神降臨

広場にいる数百人の観客は騒然となる。そこに、餅まきが始まった。最後ということで盛大だ。長時間にわたり、かなりの量の餅が空中を舞った。

すみつけ開始の合図があると、数百人の人々がお互いの顔に大根を押し当てて墨を付け合う「すみつけ」イベントが繰り広げられる。

ものの十五分ほどで、墨の付け合いは終わる。人々の顔は頬や額が黒い。そして、参加者は皆笑顔、笑顔。なんなのだろう、この子どものような笑顔は！

イベントの後、本当の祭りが始まる

広場でのイベントの「すみつけ」が終わると、多くの観客は帰り始める。これからが、本当の「すみつけ祭り」なのだ。広場から先導と呼ばれる八十四歳の長老が歩み始める。その後ろを二本の大幣と三人の荒神が随行する。

84歳の先導

二十五戸の住宅を荒神が個別訪問するのだ。訪問する住宅の玄関には御幣が付けられている。この住宅の前に二本の大幣が立てられ、荒神が舞う。そうして、住宅の中に荒神が入ってゆく。草鞋(わらじ)をはいた荒神は、土足のまま畳の部屋に入り込み、また舞う。住人たちは、荒神を歓迎し、一行を飲食でもてなす。江戸時代初期から続くといわれるこの祭りの、存続を願う老人たちの思いがわかる気がした。

道中の最後に訪問したのは、木浦エメリーという木浦に残る唯一の鉱山会社だった。エメリーという非常に硬い鉱物の採掘を続けてきたが、まもなく会社が閉鎖となる。祭りも消え、最後の鉱山会社も消える。

閉山する木浦エメリー社の前で

【最後に】

祭りが終わった夕刻、集会所で直会(なおらい)が始まった。長老の一人が挨拶をした。

「若い人たちが苦労するから、そろそろ祭りも最後にしようということにしたが、本心はまだ続けて欲しい…。」

実行委員会の若手メンバーから、えぇ～～という驚きの声が広がった。

さて、実行委員会のみなさん、どうしますか？

荒神の最後の舞

Takataro Pictures Office代表
写真家
Takataro(たかたろう) 氏
写真ブログ
「美しい日本、この一枚。」
http://kono1.jp

日本の「風景と伝統の祭り」を主なテーマとして撮影している写真家です。長年、日本全国を撮影してきましたが、それでもまだ見ぬ風景や祭りに出会いたいという情熱は増すばかりです。そして、その地にたどりついたとき、私の情熱を裏切らない美しい風景や感動の祭りを目にするのです。

大分の古民家のご相談はこちら!

一般社団法人全国古民家再生協会
大分第二支部
兎洞(うとう) 正和(まさかず) 氏
〒871-0027 大分県中津市上宮永2丁目182
TEL 0979-53-9297 FAX 0979-23-8261
http://kominka-oita.org